

**2024 年 1 月 改訂（第 7 版）
*2022 年 4 月 改訂（第 6 版）

医療機器承認番号：21600BZY00200000

医療用品 4. 整形用品
高度管理医療機器 人工骨頭（JMDN コード：33704000）

デピュー エリートヘッド

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1. 使用方法
- (1) 再使用禁止
- (2) 再滅菌禁止
2. 適用対象（次の患者には使用しないこと）
- (1) 局所または全身の進行性の感染症または敗血症のある患者〔患部に病巣が移り、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (2) 筋組織の作用喪失、神経疾患による筋肉と神経の相関作用喪失、または循環障害のある患者〔患肢の治癒を妨げ、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (3) 骨粗鬆症、骨質不良の患者のうち、インプラントのシンキング及びマイグレーションや大腿骨骨幹部の骨折の可能性がある、またはインプラントを支持する骨が十分ではないと医師が判断した患者〔埋植したインプラントを支持できないことがある〕
- (4) シャルコー関節症の患者〔関節の知覚障害による関節の破壊により良好な埋植結果を得られないことがある〕
- (5) ページェット病の患者〔骨吸収と骨新生のバランスが乱れることにより良好な埋植結果を得られないことがある〕
- (6) 寛骨臼の不規則な変形、臼蓋底突出症（オットー骨盤）、寛骨臼のマイグレーション、異常又は変形などの寛骨臼に病理学的所見のある患者への人工骨頭挿入術の適用〔病理学的所見のある寛骨臼の関節面では人工骨頭用インプラントに適合せず、良好な埋植結果を得られないことがある〕
- (7) インプラントが患者の股関節の解剖学的形態に適合しない患者〔骨との接触面積が低下し、期待される安定性・固定性が達成できないおそれがある〕

【形状・構造及び原理等】

- 本品は人工股関節置換術及び人工骨頭挿入術に際し、大腿骨の機能（骨頭）を代替するために使用されるコバルトクロム合金製のフェモラルヘッドであり、人工股関節置換術時には臼蓋形成用カップ、臼蓋形成用インナーカップ及び大腿骨ステムと共に使用され、また人工骨頭挿入術時には人工骨頭用カップ及び大腿骨ステムと共に使用される埋込み型の医療機器である。
- 本品は二重滅菌包装後、放射線（γ線）滅菌が施された埋込み型の医療機器であり、1 回限りの使用で再使用しない。
- 形状、規格及び原材料等は、次のとおり。なお、本品の原材料には、ニッケル、クロムが含まれている。

1. 形状・構造

(1) エリートヘッド タイプ 1

形 状	カタログ番号	サイズ
	9627-00-100	28mm / -3
	9627-01-100	28mm / 0
	9627-02-100	28mm / +3
	9627-10-000	36mm / -3
	9627-11-000	36mm / 0
	9627-12-000	36mm / +3
	9627-13-000	36mm / +6
原材料： コバルトクロム合金		

(2) エリートヘッド タイプ 2

形 状	カタログ番号	サイズ
	9627-03-100	28mm / +6
原材料： コバルトクロム合金		

2. 原理

ヘッドを大腿骨用ステムと組み合わせて使用することで、大腿骨側股関節を置換し、臼蓋側材料又はパイポーラカップとともに関節機能を再建する。

【使用目的又は効果】

1. 使用目的

- (1) 本品は人工股関節置換術及び人工骨頭挿入術に際し、大腿骨頭の機能を代替するために使用されるフェモラルヘッドであり、埋込み型の医療機器である。
- (2) 本品の適応症は次のとおりであり、1 回限りの使用で再使用しない。

2. 効能又は効果

(1) 股関節置換術の適応

- 1) 骨関節炎、外傷性関節炎、リウマチ性関節炎又は先天性股関節形成不全に起因する疼痛及び/又は関節機能障害。
- 2) 大腿骨頭部の阻血性壊死。
- 3) 大腿骨頭部又は頸部の急性外傷性骨折。
- 4) 関節再建術、内固定術、関節固定術、人工骨頭挿入術、関節表面置換術や股関節置換術などの再置換術時。
- 5) 関節硬直。
- (2) 人工骨頭挿入術の適応
- 1) 内固定では適切な整復治療ができない大腿骨頭部又は頸部の急性骨折。
- 2) 内固定では適切な整復治療ができない股関節の転位骨折。
- 3) 大腿骨頭部の阻血性壊死。
- 4) 大腿骨頸部骨折の癒合不全。

- 5) 高齢者における大腿骨頭の過度の消耗。
- 6) 大腿骨頭部のみに発生している変形性関節炎で、寛骨臼の置換を必要としない場合。
- 7) 人工骨頭挿入術で病的に適切な治療ができる大腿骨頭部・頸部及び/又は近位大腿骨。

【使用方法等】

1. 使用（手術）方法（例）

- (1) 人工股関節置換術＜大腿骨側＞の概要
- 諸検査と診断の上、手術には専用の器械セットを使用し、次の手術手順にて股関節機能再建のためのインプラントとして使用する。
- 本品は滅菌済みであるのでそのまま使用できる。ただし、外観上損傷がないように見えても、手術の失敗に繋がる微細な欠陥が発生している可能性があるため、一回限りの使用で再使用しない。

1) 骨髓腔の位置確認



2) 骨髓腔のリーミング



3) 大腿骨頸部骨切り



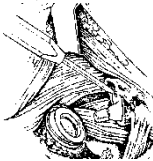
4) 転子部の処理（ブローチング）、骨髓腔の形成



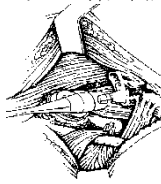
5) 試験整復



6) 大腿骨ステムの挿入



7) フェモラルヘッドの挿入固定



2. 組み合わせて使用する医療機器

構成品の種類	販売名	医療機器承認番号等
大腿骨ステム	デビュー人工関節	16300BZY00568000
	チャンレー人工股関節システム (エリート トータル ヒップ システム)	20500BZY00280000

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- (1) 術前の注意
- ・医師は、術前に患者と手術に伴う当該患者の身体的、精神的な制限、手術内容、人工関節について患者に説明し、患者の同意を得ること（インフォームドコンセントを実施すること）。その際に、人工関節の限界とその使用により起こり得る事象、医師の術後指示に従う必要性、特に体重の問題と活動の制限について説明を加えること。
- (2) 術中の注意
- ・保護カバーは、インプラントの埋植直前まで取り外さないこと。
 - ・インプラントを落としたり硬いものにぶつけた後は、使用しないこと。目に見えない破損が生じている可能性があり、術後早期のゆるみ等の埋植の失敗が起こり得る。
 - ・試整復時には、必要な可動域が得られているか、また、股関節の緊張度が適切であるかを確認すること。
 - ・ステムヘッドを大腿骨用ステムへ設置する際は、大腿骨用ステムのステムヘッドと嵌合するテーパー部に血液、骨片や異物が付着しないようにし、テーパー嵌合時に異物を挟まないようにすること。これら異物等がステムヘッドと大腿骨用ステムのテーパー間に介在すると、ステムヘッドが大腿骨用ステムに適切に設置されず、適切な嵌合が得られない。
 - ・ステムヘッドの装着に際しては、初めに手で慎重にステムヘッドをステムにねじ込み、専用のヘッドインパクトを用いてステムヘッドを慎重に打ち込むこと。
 - ・再置換手術の際には、新しいインプラント固定が妨げられないように、骨切除面に残存する繊維性組織を完全に除去すること。また、骨セメントにより固定されている場合には、骨折に注意しながら骨セメントを完全除去すること。
 - ・インプラント摺動面の異物は過剰な摩耗につながるため、摺動面に異物等がないかをよく確かめること。また、試整復にてインプラント同士の不安定性やインピンジメントがないことを確認すること。
 - ・縫合前に、手術部位から骨片、余剰な骨セメント、異所性骨を除去すること。
 - ・人工股関節置換術で寛骨臼部品を前傾及び後傾に埋込まないこと。[関節の不安定又は脱臼を招く可能性があるため]
- (3) 術後の注意
- ・医師は、患者の退院時に、患者にリハビリのための運動、今後の治療についての指示、生活上の運動制限などの注意事項を文書等で患者に喚起すること。また、患者に、体重や活動性等が、インプラントの摩耗の要因として著しく影響することを知らせること。
 - ・医師は患者に、術後、筋肉機能が十分に回復し、松

葉杖なしでも手術部位に過度の負担を与えなくなるまで、2本のちには1本の松葉杖を使用して部分荷重を実施させること。

- ・医師は患者に、インプラントの位置変化や摩耗を引き起こすような過度の運動や外傷に注意するよう指示すること。
- ・定期的な経過観察は必須であり、医師は検診時に X 線撮影を行い、前回の X 線検査と比較して患者の臨床所見と見比べて検討すること。骨透亮像、骨吸収またはインプラントの位置変化などが観察された場合、それらが静止状態なのか進行性なのかを見極め、それに応じて患者の治療を実施すること。

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

- (1) 糖尿病等の代謝障害がある患者〔インプラントを支持できなくなるおそれがある。また、感染が起りやすく、患肢の遷延治癒等が起り得る〕
- (2) ステロイド療法、免疫抑制療法等の全身薬物療法を受けている患者〔インプラント固定の不良により、良好な埋植結果が得られないことがある。また、こうした患者は、関節周囲の骨粗鬆症により、術後骨折が起りやすい。さらに、抵抗力が弱いので感染が起りやすい〕
- (3) 全身または局所の感染症の病歴のある患者〔手術後しばらくしてから、感染に弱い人工関節の部分に病巣が移ることにより、インプラントの固定が不良となり、インプラントの再置換手術が必要となることがある〕
- (4) 重度の変形のある患者〔インプラント固定の不良や不適切なアライメントにより、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (5) 支持骨に骨腫瘍のある患者〔インプラント固定が不良となり、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (6) 肥満症及び体重過多の患者〔患肢に過度の負担がかかり、インプラントの位置変化、摩耗、折損等によるインプラントの再置換手術が必要となることがある〕
- (7) 重労働、激しいスポーツ等の活動性の高い患者〔患肢に過度の負担がかかり、インプラントの位置変化、摩耗、折損等によるインプラントの再置換手術が必要となることがある〕
- (8) 医師の指示を遵守できない患者または精神障害のある患者〔リハビリテーション等の術後管理が不十分になることにより、患者の術後回復が遅れることがある。また、無防備な状態で転倒したり不良肢位を取る可能性が高いため、患肢に過度の負担がかかり、インプラントの位置変化、摩耗、折損等によるインプラントの再置換手術が必要となりやすい〕
- (9) 本品の適切な使用を妨げるような周辺骨異常のある患者〔本品が適切に固定されず、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (10) アルコールまたは薬物中毒の患者〔リハビリテーション等の術後管理が不十分になることにより、患者の術後回復が遅れることがある。また、無防備な状態で転倒したり不良肢位を取る可能性が高いため、患肢に過度の負担がかかり、インプラントの位置変化、摩耗、折損等によるインプラントの再置換手術が必要となりやすい〕
- (11) 他の関節（膝関節や足関節）に障害のある患者〔イ

ンプラント固定が不良となり、良好な埋植結果が得られないことがある。また、患肢に負担がかかり、良好な埋植結果が得られないことがある〕

- (12) 骨粗鬆症または骨質不良のある患者〔インプラント固定が不良となり、良好な埋植結果が得られないことがある。また、埋植したインプラントが移動することがある〕
- (13) 転倒の可能性の高い患者〔転倒により、患肢に過度の負担がかかり、インプラントの位置変化、摩耗、折損等によるインプラントの位置の修正や、再置換手術が必要となることがある〕
- (14) インプラントを支持する骨量が減少する可能性のある発育性股関節形成不全症を有する患者〔インプラントが固定不良となり、良好な埋植結果が得られないことがある。また、患肢に負担がかかり、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (15) 再置換手術の患者〔手術時間が初回の置換術と比較し長いこと、切開の位置の難しさ、異所性骨と骨セメントの除去、インプラントの配置や固定、十分な支持骨の獲得の困難、出血多量等により、有害事象の発現頻度及びその重症度が初回手術の患者より大きくなる傾向がある〕
- (16) 対麻痺患者、脳性小児麻痺の患者、パーキンソン病の患者〔リハビリテーション等が十分に実施できず、患者の術後回復が遅れたり、良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (17) 若年患者〔活動性が高いことにより、インプラントに過剰な負担が加わり、インプラントのずれや摩擦が生じるおそれがある。また骨成長に伴い、留置時のインプラントのサイズやアライメントに影響が生じる可能性がある〕
- (18) 高度の骨欠損あるいは骨萎縮又は骨変形のある患者〔本品を適切に固定できず良好な埋植結果が得られないことがある〕
- (19) 骨格の未熟な患者〔骨格の成熟により、インプラントのサイズが不適切になる可能性がある〕
- (20) 本品の材質、成分に対し過敏症の既往歴のある者

* 2. 重要な基本的注意

- (1) 本品は滅菌品であり、滅菌包装に破損が見られる場合には、絶対に使用しないこと。
- (2) 転倒により患肢に重度な負担がかかるために人工関節部周辺部を骨折することがある。また、転倒時の外傷によりインプラントが位置変化することにより摩耗、破損するおそれがあり、位置の修正が必要となることがある。
- (3) 本品については、試験による MR 安全性評価を実施していない。金属製インプラントの MR への暴露は、発熱やマイグレーションのリスクを有している。金属製インプラントの埋植部位やその付近を MR で撮像すると、アーチファクトにより MR 画像の質が低下することがある。

3. 不具合・有害事象

- (1) 重大な不具合
 - 1) 折損、破損：本品に金属疲労によりひびが入ったり、折損する場合があるので、観察を十分にを行い、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 2) 摩耗、ゆるみ：大腿骨用ステムとステムヘッドの結合部分が摩耗し、金属の摩耗粉が発生することでメタローシスを生じて関節腫脹や疼痛が起こ

る場合がある。また、この金属の摩耗粉がインプラントの摺動面に入り込むことで、ステムヘッドや臼蓋形成用カップが摩耗し、摩耗粉が発生することで、メタロシスや組織反応、骨溶解を生じて、関節腫脹、疼痛、インプラントのゆるみ等を生じる場合がある。医師は術後の経過観察を十分に行い、異常が現れた場合には、直ちにインプラントを抜去し再置換を実施する等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の不具合

- 1) 金属製インプラントの腐食
- 2) インプラントの脱転、位置変化

(3) 重大な有害事象

- 1) 早期感染：発熱、埋植部位の疼痛、熱感、腫脹、発赤、術後創からの持続的な滲出液などが現れることがあるので、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。（早期感染は、術中の感染または静止感染が原因であると考えられている）
 - 2) 遅発性感染：埋植部位の熱感や腫脹などの炎症所見が現れることがあるので、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。（遅発性感染は、他の感染巣からの血行感染または術後の抗生剤の使用により、細菌の活動が抑制され、術後早期には症状が発現せず、遅れて感染症状を示す場合が考えられている。深部感染では、インプラントの抜去、再置換を含む外科的な治療が必要になる場合もある）
 - 3) 塞栓（脂肪、空気、血液等）：脳塞栓においては半身の麻痺、感覚の低下、意識障害が、肺塞栓においては呼吸困難や強い全身倦怠感、胸部痛、咳が現れることがあるので、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 4) 深部静脈血栓症：患部の浮腫、熱感、腫脹、倦怠感が現れることがあるので、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 5) 術中骨折及び骨穿孔：術中に、埋植部位の処置が不適当であったり、インプラントの埋植操作中に過度の力を加えると、術中骨折及び骨穿孔が起こるおそれがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 6) 術後骨折：術後に、外傷や患肢への過度の負荷、重度の骨粗鬆症、骨吸収や骨質不良、再置換手術においては前回の置換術時の骨欠損等により、インプラント周辺部の骨折が発生するおそれがあるので、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。また、過度の筋肉緊張、体重過多、転子部の骨吸収により、転子の裂離が発生するおそれがあるので、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 7) 金属アレルギー：創部のアレルギー性接触皮膚炎、アレルギー性肉芽腫、また、創部以外の部位のアレルギー反応が現れる場合があるので、異常が現れた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 8) 骨吸収：骨に適切な応力が加わらなくなり、インプラント周囲の骨が廃用萎縮により吸収されてインプラントがゆるんだり、シンキング、破損する場合があるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。
 - 9) 術中の不適当な患肢位置によって二次的に生じた同側の膝の外傷性関節症
- (4) その他の有害事象
- 1) 末梢神経障害
 - 2) 潜伏性（無症候性）神経障害
 - 3) 金属腐食、金属アレルギー、摩耗粉、セメント粉等による組織反応

- 4) 骨溶解
- 5) 血管損傷
- 6) 一過性または持続性の神経損傷(大腿部、閉鎖筋または腓骨神経等)
- 7) 軟部組織（筋、靱帯、腱）の弛緩
- 8) 脱臼、亜脱臼
- 9) 関節の不安定性
- 10) 血腫
- 11) 遷延治癒
- 12) 肺炎、無気肺
- 13) 脚長差
- 14) 異所性の骨形成
- 15) 疼痛
- 16) 寛骨臼穿孔
- 17) 過度の筋肉緊張による転子裂離
- 18) 同側または反対側の膝及び足関節の悪化
- 19) 関節周囲の石灰化

3. 高齢者への適用

- (1) 高齢者には、術中骨折あるいは骨穿孔を起こす可能性が高いので慎重に使用すること。また、術後、転倒等により術中の過剰な骨切除に起因する骨折が起きる可能性が高い。[高齢者は、骨粗鬆症を伴っている場合が多い]
- (2) 高齢者には、術前、術中、術後の全身管理に特に気をつけること。[高齢者は、全身性の合併症を有している場合が多い]
- (3) 高齢者にセメントレス固定を行う場合、術後の経過観察において初期固定が得られているか特に注意すること。[骨新生能の減少により、インプラントの十分な初期固定が得られにくいことがある]
- (4) 骨との固定に骨セメントを使用する場合は、高齢者においては、血圧低下、特に重篤な循環不全に至るリスクが他の患者と比較して大きいので、骨セメントの使用による有効性がこれらのリスクを上回ると判断される場合にのみ使用すること。[高齢者は、細胞外液量が低下している上に、心血管系の反応性が低下していることから、骨セメントの使用によりショックを発症し死亡した症例が報告されている]

4. 産婦、授乳婦及び小児等への適用

産婦、授乳婦及び小児等に対しては、特に、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。
[産婦、授乳婦及び小児等に対する安全性は確立していない]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

室温保存

水濡れに注意し、高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 有効期間

使用期限は、外箱に表示 [自己認証(自社データ)による]

** 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

URL：jni.co.jp

製造業者：

・デピュー・インターナショナル社

(DePuy International, Ltd) 英国